

## お詫び

いちいち文献を探すのが面倒な時、(実際、オレが探せばみつからない!) おぼろに覚えているまま書いてしまうことがよくある。

最近では、大東亜戦争の末期、ソ連が一方的に日ソ不可侵条約を破棄し、満洲のみならず、樺太、千島列島(占守島)になだれ込んできたのを**8月9日**と書いている。少なくとも住民は8月9日と考えたはずだが、実際には、**8月8日**で、日付が9日になる直前という時間帯だったらしい。公式には、「9日午前0時を期して攻撃する」と通告してきたらしいが、○ス○のことだから時間なんか気にしないのだろう。略奪に遅れるから、という理由もあっただろう。いずれにしても、8日に侵攻が始まったのは間違いないようだ。

この日になった、またギリギリまで待った理由がある。ナチスドイツが降伏したのが5月8日である。英米ソの間では、ドイツ降伏後3ヶ月以内にソ連が日本領に侵攻する約束だった。ところが、あのスターリンが、間際まで恐れていたのが**日本陸軍の強さ**で、その理由はノモンハン事件のときの資料が流出してきてわかった。ソ連では軍神と呼ばれ、救国の英雄ジューコフ将軍がもっとも辛かった戦いはどこでのものかと聞かれたとき即座に、「**ノモンハン事件だ**」と答えた。このことはスターリンの脳裏にもいつも引っ掛かっている、約束の期限の直前まで逡巡していたのである。実は、ノモンハンでは日本軍は負けた、ことになっているが、実際には敵の損害のほうが大きく、あれは勝ち戦であった。辻政信の弱気、すなわち、しなくてもいいような戦いで多くの日本兵が斃れたことに対する言い訳のようなもので、撤兵したため負けたことになってしまった。半藤一利など、「結果として国境線は相手のいうとおりになった」などと、話題を勝手にすり変えたりしている。こいつはやっぱり理解力が悪いわ。……日本陸軍の強さは、終戦後に武器を放棄しているのに攻撃してきたから、再び武器をとってソ連軍を占守島でコテンパンにやっつけてしまったことからわかる。 というようなわけで、間違いを訂正するとともにお詫びいたします。

「海軍航空甲参謀中佐樋端久利雄」の稿でもいくつか事実誤認があり、今訂正加筆しているところです。

さらに「南京大虐殺ならぬ南京アトローシティ」では、犠牲者の人数を多く書きすぎたのではないかと考えています。日本兵は、(米軍のように)一般人を殺

害することはありません。普通人の格好をした便衣兵と間違えて殺害した民間人はいるかもしれませんが、無差別に殺戮し続けた、というようなことはありません。ただ、捕虜を殺害したことは、いくら食餌がないと言ってもやはり国際法に照らしても不可である。だから、殺害された者は、おそらく1万数千人ではないか、と思っています。虐殺はありません。日本人の精神構造には、虐殺などないから。

蟹は自分の甲羅に合わせて穴を掘る、というのが、米国も中国も「自分たちのすることを日本人もするはずだ」と考え、そのようにデッチあげて話を作っただけである。……米国人もこれを認めていて、米国人と中国人は（一部だろうと思いたい）残虐だ、と言う。

零戦・特攻隊の話も続編を書きたいと常に考えているのですが、これらの本を読んでいくと関連する本だけでも60冊を優に越し、今せっせと知識を若い頃に読んでいたものに加えて増やしているところです。これが結局の所、戦争の原因やそれに至る思考過程、政治と軍との諍い、マスメディアとの関連などなどに辿り着き、次々に読まねばならない本がでてきます。さらには、自分の興味のある本が出版されていると、今買っておかないと入手困難になったりするので、可能な限り、集めています。もうこの1年あまりに100冊以上は買っているだろうと思います。……それでもたとえば高山正之氏などに比べると時間が足りない、と切実に感じています。彼は、最近の対談で、「外科の夜明け」を読んだと言っておられるが、この本は40年以上前にわれわれが読んだ本です。この人は、TVの批判もするし、「ナンボほど読んでるねん」と思うほどの読書量だし、いつ寝ているのかとも思います。

昔から暇さえあれば活字に目を通してきましたが、学校を卒業した2~3年に匹敵するのではないかと、というくらい読んでいます。……もう少し時間の猶予をお願いします。

日本の起こした戦争について「天に代わりて不義を討つ」などというつもりはさらさらないが、このところ読んでいる本の題名を書いていくと、たとえば「アメリカはいかにして日本を追い詰めたか」「なぜアメリカは対日戦争を仕掛けたのか」「太平洋戦争：アメリカに嵌められた日本」「連合国戦勝観の虚妄」「太平洋戦争は無謀な戦争だったのか」……これらは、すべて米英国の人が書いたものです。さらには「ルーズベルトの開戦責任」もあるし、「白い人が仕掛けた黒い罠」「昭

和の大戦 正統」 「日本は勝てる戦争になぜ負けたのか」 ・ ・ ・ ・ ・ いくつもあります。NHKは、「日本人はなぜ戦争へと向かったのか」3部作を著している、例によって偏向ありますが。 ・ ・ ・ ・ ・ このあたりの話になると、諸説入り乱れており、ミッドウェイ、ミッドウェイ戦記、ガダルカナル戦記などなど、これらを読んでなにが歴史的真實なのか、を知りたいと思っています。

うちのスタッフらに語るようなごく小さな事柄はいくつもありますが、何行かで終わってしまうようなものは、書けるわけがない。せめて1~2枚分の量がないとまとめられない。たとえば、今防犯についてのTV番組がいくつか報道されていますが、小生はその任にあらずですが、日中でも玄関のかぎを掛けていない家が50%もあるというし、昔どこかで読んだものの中に、帰りを急ぐ一人住まいの女性のあとをつけていき、マンションかアパートに帰りついたときに、彼女はトイレに行きたいから急いでいただけで、鍵も掛けずにトイレに飛び込む。その間に、ごく普通にドアを開けて、ハンドバックか何か、めぼしい物を盗んで行くような知能犯がいるらしい。なぜトイレに急いでいたのがわかったのか、を判断するのがプロの目らしい。 ・ ・ ・ ・ ・ という程度の話はいくらでもあります。

2016. 01. 11.